



寒いこの季節はヒートショックにご注意！

【ヒートショックとは？】

急激な温度変化が身体に及ぼす影響のことで、室温の急激な変化によって血圧が急速に変化し、脳卒中、心筋梗塞などの深刻な疾患につながる可能性があります。最悪の場合、死にいたることもありますので、日頃から注意し、予防しましょう。

〈予防対策〉

基本的な予防は、急激な温度変化の刺激を減らすこと。（寒冷刺激に注意）

- ① 脱衣所に暖房器具を置く。
- ② 浴槽にお湯を溜め、ふたを開けておき、浴室内の温度を上げておく。
- ③ 熱いお風呂は心臓に負担がかかるため、お湯の温度は低めに設定。
- ④ 起床時、薄着のまま、寒い所へ移動しない。

消防小型動力ポンプが配備されました！！

宝くじ社会貢献広報事業（一般財団法人自治総合センター）のコミュニティ助成事業を活用し、火災時の消火活動や浸水時の排水作業など消防団の対応力の充実強化を図るため、上島町消防団 岩城方面隊第1分団に消防小型動力ポンプ一式を配備しました。

今後は、町民の皆さまの生命と財産を守るために利用させていただきます。



令和6年10月出動件数

地区	弓削	生名	岩城	魚島	その他	合計	R6累計
火災	0	1	0	0	0	1	4
救急	26	6	7	1	0	40	385

（令和6年10月31日現在）

【上島町消防署】 ☎ 77-4118
【上島町消防本部消防防災課】 ☎ 77-3166

災害から守ろう上島町を！ 消防団員募集中！

石油暖房機を正しく使う7つのポイント！

寒い時期を迎え、ストーブなどの暖房器具を使用する機会が多くなります。それにともない、毎年、全国的に石油ストーブ等による火災が多く発生しています。快適で安全に過ごすために、次の点に注意しましょう。

- (1) 給油時はまず消火！給油後はタンクの灯油漏れがないか確認を！
- (2) 石油ストーブの上に衣類などを干さない。
- (3) カーテンや布団、紙類など燃えやすい物をそばに置かない。
- (4) スプレー缶を温風の当たる場所に置かない。
- (5) ガソリンは絶対に使用しない。
- (6) 1時間に1～2回（1～2分）は換気を！
- (7) 昨シーズンから持ち越した灯油や、灯油以外の油・水・ゴミが混入したものは使用しない。



住宅用火災警報器を点検・交換しましょう！

火災の発生を早く知り、被害を軽減することを目的に、平成23年から「住宅用火災警報器」の設置が義務化となりました。

「住宅用火災警報器」は、約10年がその寿命とされていますので、年2回程度の定期的な点検を行い、10年を目安に本体を交換しましょう。

〈点検の方法〉

- 点検ボタンを押す（点検用のひもを引く）
（例）「ピーピーピー 火事です」のように鳴れば正常です。
- 作動しないときは、電池がきちんとセットされているか確認して、再点検して下さい。
- それでも鳴らない。または
（例）「ピッ… ピッ…」、（例）「ピッピッピッ… ピッピッピッ…」と鳴る場合は、「電池切れ」か「機器本体の故障」ですので、取扱説明書を確認して、速やかに電池や本体の交換をお願いします。

「住宅用火災警報器」は、ホコリが入ると誤作動を起こす場合があります。取扱説明書を確認して、点検に合わせて定期的にお掃除を行いましょう。



マシン油乳剤は、カンキツ類や樹木類のカイガラムシ類やハダニ類に対して冬季の越冬虫や夏季のミカンハダニの防除に使われる農薬です。これから収穫後の冬季散布の時期を迎えるにあたりマシン油乳剤について解説します。

(1) マシン油乳剤開発の歴史

油を農業害虫の駆除に利用してきた歴史は古く、江戸時代には鯨油（クジラの油脂）を田に流し入れウンカ（コメの害虫）を駆除した記録があります。1880年頃から石油が農薬として利用されて以来、1世紀近く改良を重ね、現在のマシン油乳剤となりました。石油から精製された炭化水素を主成分としたマシン油乳剤は物理化学的な作用により微小害虫に対して高い殺虫効果が得られています。しかし、植物への薬



害が発生しやすいため収穫後の休眠期（冬期）の散布に限られていたが、昭和40年代頃から新しいマシン油乳剤の開発により、精製を高めた薬害の発生しにくいマシン油乳剤97（製品名…アタックオイル、ハーベストオイル等）が開発され、春・夏の生育期散布が可能になりました（表1参照）。

(2) 農薬以外による越冬病害虫の防除

マシン油乳剤は、カンキツ類や樹木のカイガラムシ類やハダニ類（写真1、2）に対して呼吸器官である気門を油分でふさぎ呼吸阻害により殺虫するため抵抗性による効果の低下はありません。その他殺虫剤の多くは神経系に作用するため抵抗性が発達して効果が低下することがあります。しかし、マシン油乳剤は油分により植物への影響（薬害、落葉）があるので倍数と時期を守って使用する（表1参照）。散布後は葉に油が浸潤した油浸（ゆしん）の発生が見られますが、しばらくすると消失します。特にカイガラムシ類を対象と



写真2
ミカンハダニ



写真1
イセリアカイガラムシ

した高濃度での散布は収穫後の冬季（発芽前まで）の散布に限られます。また、害虫以外の昆虫（益虫類）への影響が少ないことも特徴で環境にやさしい農薬と言えます。

(3) 農薬による防除

マシン油乳剤は、カイガラムシ類やミカンハダニの越冬虫に対する抑制効果が高いので翌年の発生が減ります。そのためには収穫後の冬季（12月～3月）散布は必ず行ってい

たください。散布にあたって以下の点に注意してください。

① 農薬が虫に接触しなければ物理的効果が発揮できないため害虫の越冬場所である葉裏や株元や樹皮の割れ目にも農薬がかかるよう丁寧に散布する。

② 冬季の高濃度散布は樹体への影響（落葉等）があるので1回散布にとどめ冬季の2回散布は絶対に行わない。樹勢が弱っている場合は散布を休止するか、高度精製マシンを使用する。

③ 冬季散布は、暖かな日を選んで散布する（油分の伸びが向上）。

④ 夏季散布は、抵抗性ミカンハダニにも有効なので6月中旬～7月上旬頃までに散布を終える。以上の注意点を厳守してマシン油乳剤を有効に活用しましょう。

表1 マシン油乳剤の種類とカンキツでの使用方法

種 類	使用時期	対象害虫	倍数	主な商品名
マシン油乳剤95	12月～3月	カイガラムシ類、ハダニ類	60 ～ 80	トモノール S 機械油乳剤95
	4月～5月	ハダニ類	100 ～ 200	
	夏期	ヤノネカイガラムシ類、ハダニ類		
高度精製マシン油 乳剤97	12月～3月	カイガラムシ類、ミカンハダニ	60 ～ 80	アタックオイル ハーベストオイル
	6月～10月	カイガラムシ類	100 ～ 200	
	4月～10月	ミカンハダニ	100 ～ 400	